作成日　平成30年4月26日

サークル名	WIN　WINでハッピーになり隊		発表者	村山 留美
			リーダー	村山 留美
部署	リハビリテーション科		サブリーダー	湯浅 美聖
活動期間	開始：平成29年7月18日 終了：平成30年3月7日		メンバー	村山 留美，湯浅 美聖， 田原 拓也，槙原 伸一， 崎元 直樹，渡辺 昌寿
会合状況	会合回数　5回 １回あたりの会合時間　60分			
所属長		所見欄		
レビュー担当者	永澤 昌 野田 宏美			

テーマ

リハビリ・病棟間の情報共有改善！
～朝の病棟業務ミーティングへ参加して～

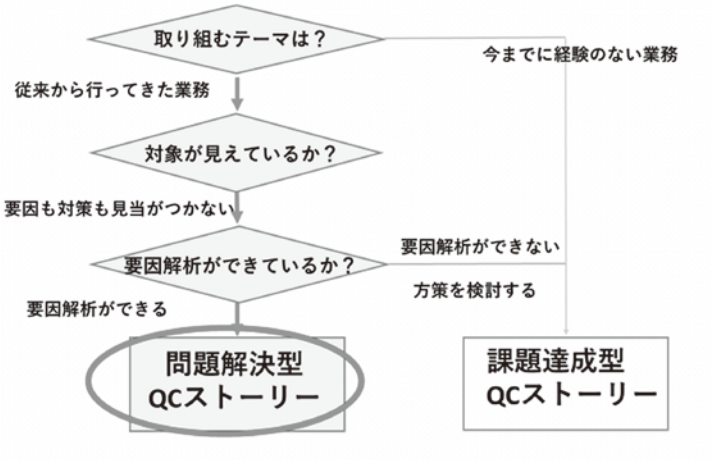
テーマ選定理由

今回の活動テーマの選定を目的に，リハビリテーション科と全病棟看護師を対象にリハビリへ求める改善点についてアンケートを実施した。結果は，土日のリハビリ休診と情報共有不足，リハビリ実施時間の項目について回答が多くみられた。
そこで，これらの問題点をもとにマトリックス図を用い点数の高かった「リハビリ・病棟間の情報共有改善」を今回のテーマに選定した。

評価項目／テーマ候補	重要度	緊急性	効果	経済性	総合評価
土日勤務によるリハビリ効果の拡大	◎	○	△	◎	14
リハビリ・病棟間の情報共有改善	◎	◎	◎	○	18
リハビリ時間の掲示による業務遂行の効率化	○	△	△	○	8

◎：5点　○：3点　△：1点

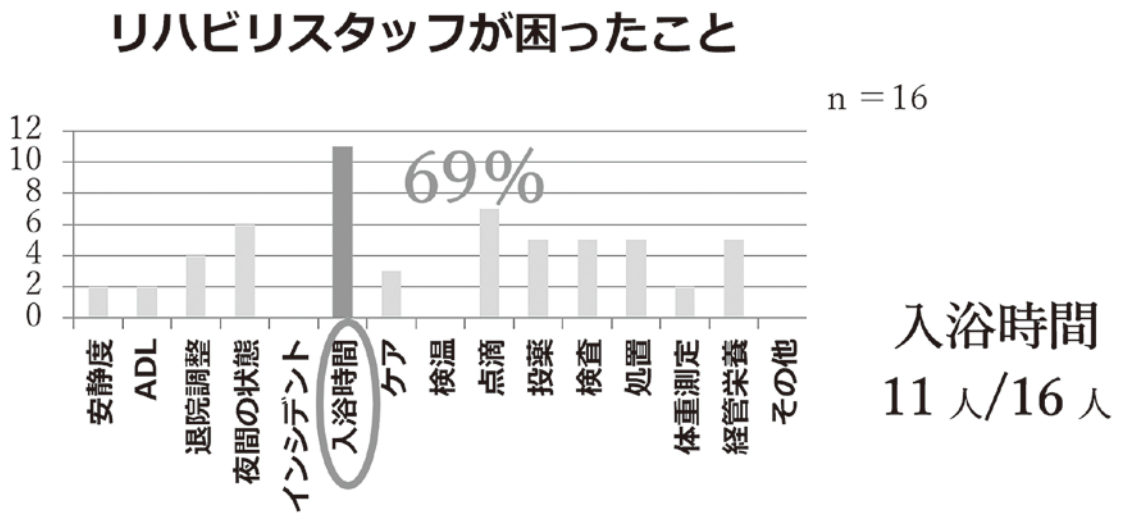
QCストーリーの選定



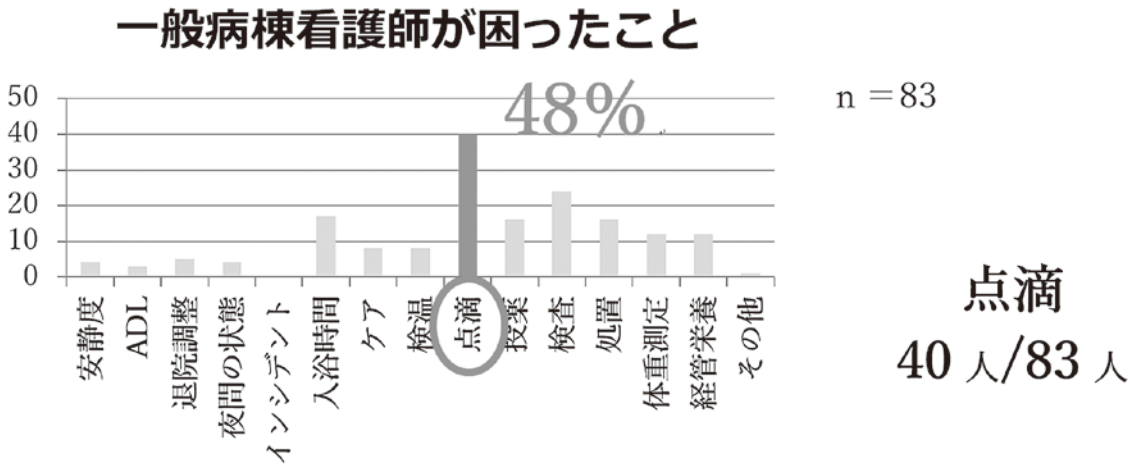
従来から行っている業務であり要因解析ができているため問題解決型QCストーリーを選定した。

現状把握

リハビリスタッフと一般病棟看護師に，情報共有に関して何の項目について困っているのかをアンケート調査した。



入浴時間とリハビリ時間が重なり，リハビリが予定通りに行えない・・・



時間指定のある注射投与時に　リハビリに行ってしまう・・・

リハビリスタッフが困ったことは６９％と入浴時間，一般病棟看護師が困ったことは４８％と点滴であることがわかった。

そこで，患者のタイムスケジュールを確認してみると，スムーズなスケジュールが組める人もいれば，抗生剤・注入食・特浴・リハビリとタイトなスケジュールの人いる。

患者さん・看護師・リハビリにとって有益なタイムマネジメントをすることを検討した

目標設定

リハビリが困ったこと

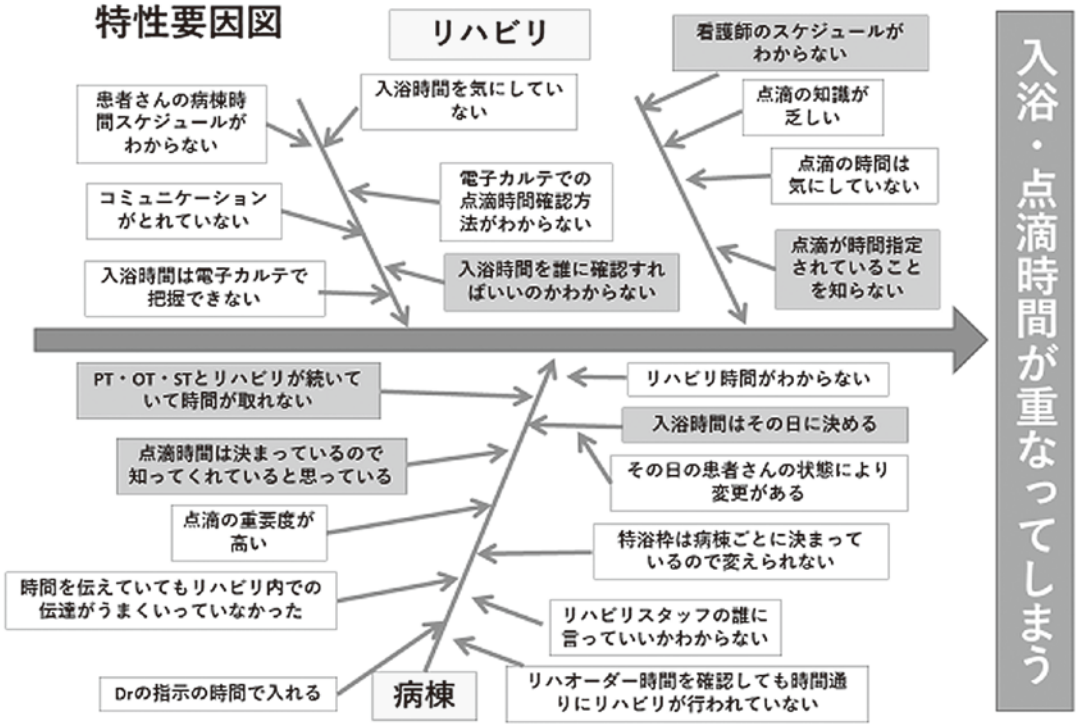
入浴時間の共有　６９％ ► ３５％

一般病棟看護師が困ったこと

点滴時間の共有　４８％ ► ２５％

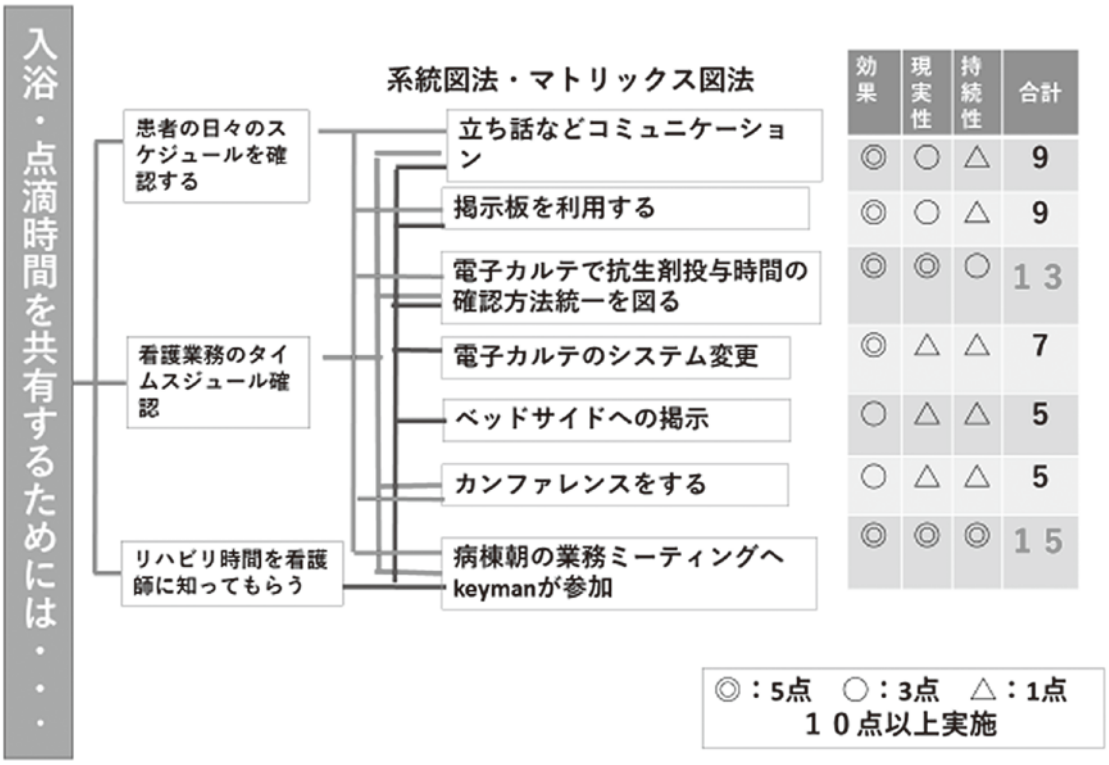
半分に削減！

要因の解析



リハビリでは「入浴時間を誰に確認すればいいのかわからない」「看護師のスケジュールがわからない」「点滴が時間指定されていることを知らない」，病棟では「入浴時間はその日に決める」「一人の患者にＰＴ・ＯＴ・ＳＴが続いていて時間がとれない」「点滴時間は決まっているので知ってくれていると思っている」などの要因により，入浴・点滴時間がかさなってしまうのではないかと分析した。

対策立案



系統図法・マトリックス図法により点数の高かった「病棟朝の業務ミーティングへkeymanが参加」「電子カルテで抗生剤投与時間の確認方法統一を図る」を対策としてあげた。

対策実施

対策①病棟朝の業務ミーティングへkeymanが参加

3西・4西・4東・5西へ一人ずつリハビリスタッフを配置

8：30　一般病棟 朝の業務ミーティングへ参加

特浴情報などを聞き取る

8：40　リハビリ朝礼時間に報告

対策②電子カルテで抗生剤投与時間の確認方法統一

電子カルテでの注射指示時間の確認方法を指導

▼

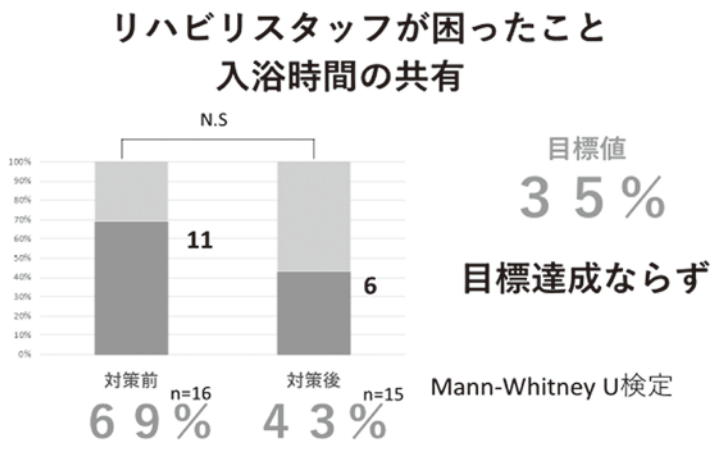
病棟マップより注射指示一覧を閲覧できるようにシステム変更

▼

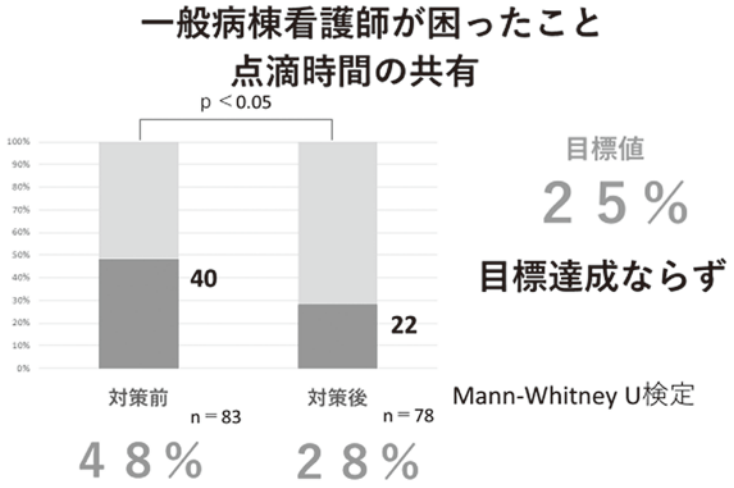
各病棟keymanが注射指示一覧にて確認し、リハビリ朝礼にて報告

効果確認

＜有形効果＞



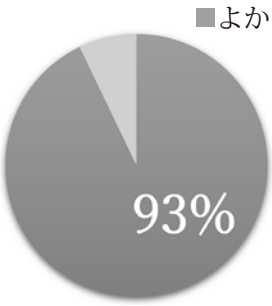
有意差の出なかった入浴時間の共有については　さらに特浴担当者にアンケートを実施。朝の業務ミーティング時はあくまでも予定であり，その後の検温により変更もみられる。また，転院日により入浴を急きょ組み込まれることもあることがわかった。



点滴時間については有意差が認められたが，急性期病院でもあり，病状の変化により朝の業務ミーティング後に点滴オーダーが入ることもあることから目標に達しなかったと思われる。

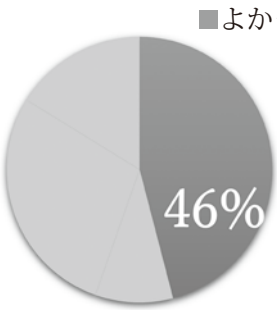
＜無形効果＞

リハビリスタッフ



・完全には共有できないが，意識づけができた
・点滴・入浴以外にインシデント報告なども含め協力すべき情報が伝わりはじめた
・病棟で話題になっていることをタイムリーに知れることがよかった
・朝，情報をもらうことで一日の予定を立てやすかった

一般病棟看護師



・朝の時点で患者さんの必要な予定などの確認が取り易かった
・その日の患者情報をすぐに伝えることができる。逆に聞くこともできる。
・お互いの業務を意識できた

朝の業務ミーティングへ参加することにより，特浴と点滴時間以外にも情報を得ることができ，対策前に比べお互いの業務を理解し合いながら仕事をすすめることができたと思われる。

標準化と管理

Why	What	Who	Where	How	When
点滴の知識を強化するため	点滴に関する知識を	村山が	リハビリ室で	勉強会をすることを薬剤師へ依頼を検討	年度明け
特浴時間枠を把握するため	特浴時間表を	村山が	リハビリ室に	掲示する	2月
情報収集の仕方を標準化するため	担当keymanを	崎元が	リハビリにて	配置を行う	1回/2カ月
業務ミーティングへの参加方法を効果的にするため	業務ミーティングへの参加方法を	湯浅が	ナースステーションで	再検討する	1回/半年

今後の課題

担当keymanにより情報収集に違いがないのか確認を行うことや，診療報酬改定により早期離床リハビリテーション加算も考慮しながら2階病棟への展開も検討していきたい。